

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 台風第13号については最新の台風予報を参照。
- 16日は、高気圧が日本海から北海道の東へ移動し、前線が日本の東から東日本付近にのびる。
- 17日は、気圧の谷が北日本を通過し、18日は、高気圧が北日本を通過する。
- 19日から20日にかけて、本州付近を気圧の谷が通過する。沖縄付近を熱帯じょう乱が進む。

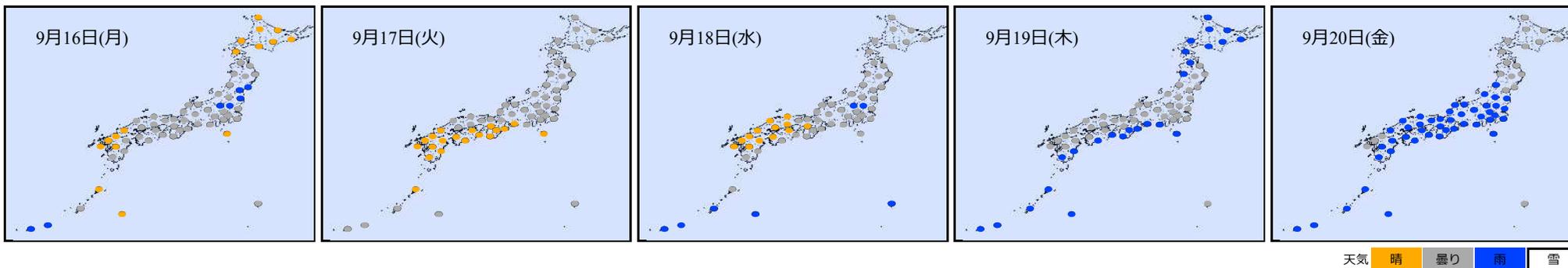
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 台風第13号の影響については、最新の気象情報を参照。
- 気温が平年よりかなり高くなる所があり、猛暑日となる所もある。熱中症など健康管理に注意。
- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

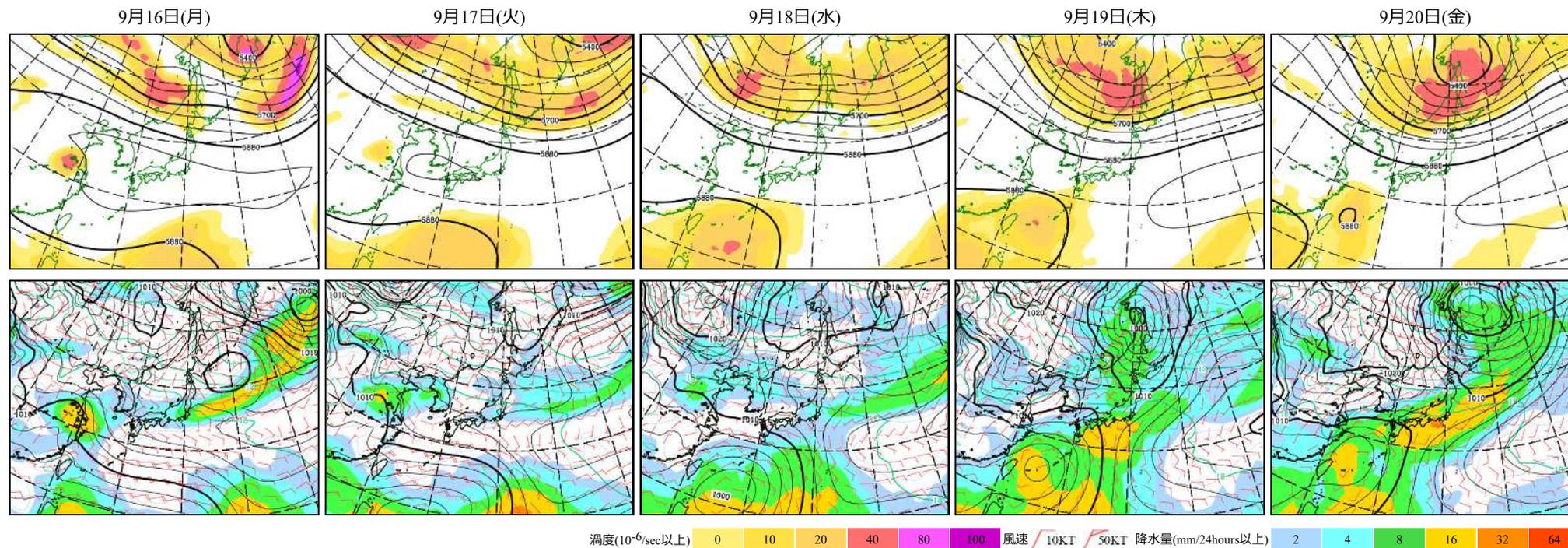
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

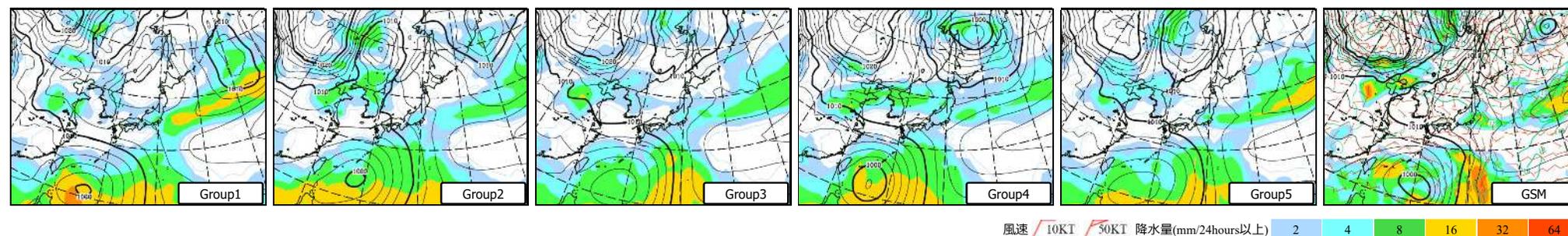


- 北日本は、晴れる所もあるが、雲が広がりやすく雨の降る所もある。
- 東日本は、雲が広がりやすく雨の降る日がある。
- 西日本は、16日から18日は晴れまたは曇りとなる。19日と20日は曇りまたは雨となる。
- 沖縄・奄美は、晴れる所もあるが、曇りや雨の日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆9月18日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、17日に北日本を進むトラフは東進が早くなり、18日以降の初期値変わりが大きくなっている。地上の気圧配置の予想は、17日以降の初期値変わりが大きい。
- 各モデルともに北緯40度以北のトラフ、リッジの予想に初期値変わりが大きい。18日以降は熱帯じょう乱が日本の南を北上すると予想されているが、発達や位置にはモデル間の差や初期値による差が大きい。複数の熱帯じょう乱が日本の南を進む予想をするモデルもあるが、ENSには2つ以上の熱帯じょう乱を予想をするメンバーはない。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。
- FEFE19で18日から20日にかけて沖縄付近に予想している低気圧については、不確実性が大きく、予想が変わる可能性があることに留意。